

2016年9月25日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 3章 1～10節

説教：私にあるものを上げよう

はじめに

先日、多くの障がい者が殺される事件が起きました。「障がい者は生きる価値がない」と考えての犯行だと言われ、多くの人たちは衝撃を受けています。

今日の箇所には、体に障がいのある方が登場します。二つの事を考えていきます。一つ目は、聖書は障がい者をどのように考えているのか。二つ目は、この人が一瞬にしていやされていますが、この奇蹟のことをどのように考えたらよいのか。この二つです。

1 宮に入ってはならない

まず聖書は障がい者をどのように扱っているか、そこから見ていきます。聖書のなかでもっとも問題があるように見える箇所を取り上げてみます。第二サムエル記 5章 8節です。「その日ダビデは、『だれでもエブス人を打とうとする者は、水汲みの地下道を抜けて、ダビデを憎む、目の見えない者、足のなえた者を打て』と言った。このため、『目の見えない者、足のなえた者は宮に入ってはならない』と言われている。」

これを読むと、ダビデは目の見えない者や足のなえた障がい者を差別しているように聞こえます。どう考えたらよいのでしょうか。

「ダビデの生きていた三千年前は今と違って障がい者を低く見るのは当たり前だったので、ダビデがこんなことを言うのはしょうがない。」ということでしょうか。絶対にそんなことはありません。三千年前であろうが今であろうが、聖書の真理はまったく変わる

はずはありません。では、これはどういうことなのか。

種明かしをしていきます。ダビデの親友にヨナタンという人がいて、ヨナタンにはメフィボシェテという息子がいました。このメフィボシェテはまだ小さかったときに乳母が誤って床に落としたために、それ以来足に障害を負っていました。足なえです。後になってダビデがイスラエルの王となったとき、ダビデはこのメフィボシェテを捜し出し、自分の家に呼びます。それも、王さまと一緒に食事をしてもよいという格別の待遇で迎えるのです。これだけ見ても、ダビデが障がい者を差別する人ではないことがわかるはずです。

では、さきほどのことばはどう理解するのか。そもそもエブス人がこんなことを言っているのは、ダビデを挑発したのがきっかけでした。「あなたはここに来ることができない。目の見えない者、足のなえた者でさえ、あなたを追い出せる。」(第二サムエル記 5章 6節) ダビデはこれを受けてエブス人に皮肉として言ったということです。決して本心で言ったのではない。よく考えていただきたい。「ダビデを憎む目の見えない者、足のなえた者」と言っていますが、そもそもそんな人たちがいたのか。足のなえたメフィボシェテにさえない大きな恵みを施すダビデの人柄をみな知っています。そもそもダビデを憎む者などいなかった。

しかしこのことばを聞いたある一部の人は誤解してしまいました。ダビデが冗談

で言ったことが発端となり、本当に足のなえた者は宮の中には入ることができなくなりました。それが今日の箇所背景にあります。

聖書は最初から障がいを持つ者にも目を留めて書かれている。まずそのことを確認します。

2 「私にあるものを上げよう」

1) 施しを受けなければ生きられない

先日、北海道聖書学院の学生たちが海外研修旅行でカンボジアに行ってきたのですが、そのときの話を聞いて驚いたことが一つありました。カンボジアにも障がい者がおります。その人たちがどうやって生き延びるのかという、ある親は子どもが健常者として生まれても、手を切ったり足を切り、その障がいを見世物にして施し受けて生きていくのだそうです。生きるためとは言え、まことにすさまじい限りです。

足なえの男は生まれつきの障がい者ですから、そこは違います。でも障がいを見世物にしなければ生きていけなかったというところは同じです。人々は宮の中に当たり前のように入っていきます。でも自分はいれません。「おまえのような足のなえた者の来るところではない。」そのような冷たいことばを浴びせられ、文字どおり門前払いをくってきました。そんなことが「美しの門」と呼ばれているところで行われていました。

2) ナザレのイエス・キリストの名によって

その美しの門の前をペテロとヨハネが通りかかります。足なえの男が「どうか恵みをください」と言って施しを求めました。それを聞いたペテロは「私たちを見なさい」と言います。当然男は何かいただけるのかと期待

するのですが、「金銀は私にはない」と言われてしまいます。すぐに続けて、「しかし、私にあるものを上げよう」と言うのを聞いても、どうせ自分ばかりかわれているのだと思って少し腹を立てたかもしれません。ところがペテロが、「ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言ったとき、本当にそうなってしまいます。

生まれたときから何十年もこの人は砂を噛むような希望もない乾ききった生活をしてきました。死んでも同然の人生です。それがある日突然水が湧き出し、まるで生まれ変わったかのように自分の足で地面に立てるようになる。だれでもおどろくようになるでしょう。ああ、よかったよかった、ということになります。

3 神による罪の赦し

1) 金銀や人の力ではなく

私たちはこの箇所を読んで何を学ぶのでしょうか。「一生懸命願えば、神は体の障がいや病気をいやしてくださる。」確かにそのとおりです。どんな人でも自分が病気だ、家族が病気だと言えば、必死になって神に祈ります。でもそれだけなのではないでしょうか。

ペテロは言いました。「私たちを見なさい。」見ると、いかにもお金を持っていないようなみすぼらしい格好の男が二人立っているだけです。でも、あとになってからわかりました。確かにこの二人は大いなる力を持っている。

ではその力いったいどこから来たのでしょうか。ペテロとヨハネが最初からこのような賜物を持っていたのか。いいえ。持っていません。彼らはもともと普通の漁師だったのです。ではいつだれからその力をいただい

たのか。ペテロが言っています。「ナザレのイエス・キリストの名によって。」ペテロが自分の力で行っているのではなく、目にはみえないけれど確かに存在される方、ナザレのイエス・キリストの権威のもとで自分は代理として行っていることを示しました。

2) 私たちは「いのちの君を殺した」

人々は、目に見える奇蹟に心を奪われ、驚き、あきれています。しかし、ペテロはこのあと意外なことを語り始めるのです。15節前半。「(あなたがたは) いのちの君を殺しました。」いのちの君、すなわちナザレのイエス・キリストを十字架で死んだことと、今日の前で起きている奇蹟とといった何の関係があるのか。なぜそんなことを言われなければならないのだ。聞いていた人々の中には反発する者もいたでしょう。

3) 神はこのイエスを死者の中からよみがえらせた

でもペテロはひるまない。15節後半。「しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」

もし仮にイエスが十字架で死んだままであったとしましょう。足なえの人がいやされるでしょうか。ペテロはこう宣言しました。「ナザレのイエス・キリストの名によって。」そうしたら奇蹟が起きた。これは何を意味しているか。イエスは確かに生きておられる。その証拠として奇蹟が起きた。そのようなつながりになります。

そうしますと、イエス・キリストの名によって願ってその結果奇蹟が起きたとき、私たちは何を見なければならなくなるのか。二

つあります。私たちはこの方を十字架で殺したとこと。それが一つ。そして二つ目。しかし神はこの方を死者の中からよみがえらせてくださったこと。常にこの二つを見ることになります。

どうしてこんなことを言うのでしょうか。病気や体の障がいと何の関係があるのかとと思うかもしれない。誰でも、病気を完全に直すためには原因となっているものを取り除かなければならないことは知っています。聖書は原因となるものを絶対に見逃さない。だからあえて厳しいことを言います。

足のなえた人は皆さんにとってどんな関係があるのでしょうか。実際に体に障害を負っている方なら、身近に感じられるかもしれない。でも体は健康だし、どこも悪いところはないと思う方にはよその人の話に聞こえたかもしれない。しかし神の目には、私たちはどのように見えているか。足のなえた者、目の見えない者、全員が障がい者に見えています。ただ表に見えているのか見えていないかだけの違いです。神はそのような私たちをなんとか救い出したいと願っています。

どのようにして救うのでしょうか。障害を持つ者には何が必要なのでしょう。

4) ペテロが持っていたもの

ペテロはこう言いました。「私にあるものを上げよう。」いったい彼は何を持っていたのか。ペテロは弟子になったばかりの頃、イエスから悪霊を追い出したり、病人をいやす権威をイエスからいただいていた。でもそれをずっと持ち続けていたのではない。一度全部失ってしまっていたのです。いつですか。「イエスなど知らない」と三度否定して逃げ出したときです。そのようにして自分は

人々の先頭に立ってキリストを十字架につけた者だ。絶対に赦されないことをしてしまったと、涙を流しながら後悔しました。

それが今ペテロは何をしているのか。足のなえた人をいやします。なぜできたのか。ペテロが赦されたからでしょう。よみがえられた主は誰に現れてくださったのか。ペテロにも現れた。うらむために現れたのではもちろんない。ペテロを愛し、力づけるために現れてくださった。そのとき、ペテロはもう一度いただきました。いやしの力を持つことができているのは、ひとえに主の赦しがあるからです。

「私にあるものを上げよう。」そう言ってペテロは何をしたのでしょうか。変に聞こえるかもしれませんが、体の障がいをやしたのではありません。この人の罪を主の御名によって赦した。その結果として、体がいやされた。そのように見ることができます。罪人のかしらである自分のような者が赦されました。その恵みをあなたにも上げましょう。それがここで起きている出来事です。

世の人々は言います。金銀が大切だ。しかしペテロは言う。金銀よりも大切なものがある。障がいを負っている私たちに最も必要なものは、神による罪の赦しである。その赦しをいただいたとき、私たちは本当の健康、それは永遠のいのちと言うことでもあるのですが、それを取り戻すことができる。そのように聖書ははっきりと教えています。

神が罪を赦してくださる恵みが。主から、金銀にも勝る宝であるこの恵みが与えられていることを覚えたいと願います。